

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 田野浦 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的な正答率は低く、特に書くこと、読むことは全国平均と比べ低い正答率であった。話す・聞くことは全国平均と同じ水準であった。
	よくできた問題	資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題。目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討問題。
	努力が必要な問題	事実と感想や意見を区別して書く、心に残った理由を述べるなど、自分の考えが伝わるように書き表す問題。人物像や物語の全体像を具体的に想像しながら書き表すなど、表現の効果を考える問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的な正答率は、全国平均と同じ水準であった。表から必要な数値を読み取り、式に表し基準値と比べる問題は、全国平均と比べて低い水準であった。数と計算領域では、多くの問題で全国平均を上回っていた。
	よくできた問題	数と計算領域。計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を観察し、求め方と答えや式・言葉を用いて記述す
	努力が必要な問題	図形領域、データの読み取りの問題。特に図形領域では、立体に関連した問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
(成果) ・授業において、自分で考える力、学び方、まとめる活動など学習により傾向がみられる。 ・授業におけるICT活用についての質問に対して、100%の児童が肯定的に回答している。 ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」「人の役に立つ人間になりたいと思う」という問いに対し、100%の児童が肯定的に回答している。 (課題) ・「毎日朝ごはんを食べているか」の質問に対して27%の児童が否定的な回答をしていた。 ・「自分にはよいところがありますか」という問いに対して、10%の児童が「あまりない」と回答していた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

基礎的・基本的な学習理解の徹底。読書など文を読み取る力や自分の考えを文章に書く力につながる取組。図形領域やグラフを読み取ることができる授業改善。
--

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

「早寝・早起き・朝ごはん」や家庭学習、具体をはめる取組の必要性を再確認し連携する。（通信、tetoru、懇談会等）
